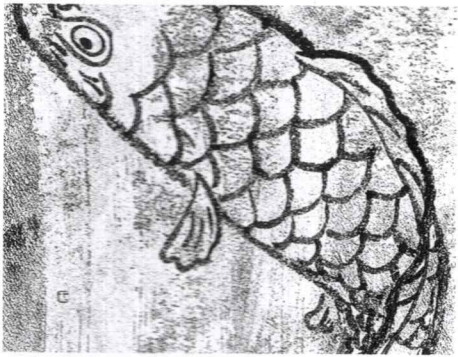


朝日 俳壇



北村さゆり (ノボレ)

◆小林貴子選

寝るための音楽を聴く桜の夜
 (和歌山県田原町) 藤田 昌幸
 どよどよと地響き立てて綺羅の雉
 (入間市) 比和野昭治
 囁りを翻訳すれば「生きてるぜ」
 (宮古市) 中野 幸子
 虚子の忌や仄かに届く甘茶の香
 (敦賀市) 中井 一雄
 たつぷりの練乳昭和めく梅
 (甲府市) 辻 基倫子
 光る雲霞さぬように蝶を持ち
 (小平市) 倉持 聡美
 土動き今年の蟻がびかびかと
 (横浜市) 神野志季三江
 名刺でふ四角のきまり入社式
 (塩尻市) 長 泰裕
 多分だが約束だから山笑ふ
 (高岡市) 武内 徹
 箱があるから猫入る春の昼
 (戸田市) 蜂巣 厚子

【評】一句目、素敵な音楽を聴き、安らかな気持ちで眠りに就きたい。二句目、羽毛が青や緑に輝くキジの存在感は堂々たるものだ。三句目、それに続けて「愛してるぜ」とも言っていそう。四句目、釈迦の誕生した四月八日が高浜虚子の忌。

◆長谷川耀選

夜桜や月の裏まで覗かせる
 (長崎市) 下道 信雄
 春の夢月に残り足跡
 (埼玉県宮代町) 鈴木 漣三
 芝に寝るわれも一体春景色
 (山梨県市川三郷町) 笠井 彰
 晴れ晴れと浴びてひとりの花吹雪
 (浜松市) 野畑 明子
 手をとめて花を惜しめり造園家
 (越谷市) 新井高四郎
 前書きも後書きもなし初蝶来
 (東京都目黒区) 日出嶋昭男
 山と木と花を映して水の春
 (春日井市) 亀山 健人
 さへつりや磯鴨は屋根つたひ
 (藤沢市) のみのつづり
 チツはわたし慟哭の春の海
 (さいたま市) 関根 道豊
 卒寿には又お花見よ米寿会
 (熊本市) 右田 捷明

【評】一席。アルテミス計画のオリオン号。月もおちおち眠れない。二席。こちらは六十年近く前のアポロ11号。足跡はまだ残っているか。三席。寝そべる人体も春景色の一つ。優雅な曲線。十句目。九十歳はすぐやってくる。わずか二年後。

◆大串 章選

六十年振りの再会春の駅
 (柏市) 今福 武
 前をゆく群青色のランドセル
 (川崎市) しんどう 藍
 人生は一度きりなり椿落つ
 (倉吉市) 砂原 誠子
 春めくや米寿の父の散歩道
 (藤井寺市) 横内 正人
 一村に外人ももて山笑ふ
 (加東市) 藤原 明
 花後海へ行くとは気づかず
 (東京都板橋区) 竹内宗一郎
 死が近き母に此の世の桜咲く
 (大村市) 小谷 一夫
 助手席の窓全開の花見かな
 (柏市) 小畑 昌司
 遠足の園児の列におちいさん
 (蒲郡市) 三田 土龍
 女医となる最初の一步入学生
 (高松市) 渡部 全子

【評】第1句。六十年振りの再会とは素晴らしい。話は尽きぬことでしょう。第2句。「群青色」は群青のような鮮やかな藍青色(広辞苑)。前をゆく学童の明るい未来を思う。第3句。一度きりの人生、散り乱れることなく丸ごと人生を全うしたい。

◆高山れおな選

逃げ水を追はずして何追って生く
 (東京都世田谷区) 有馬由起子
 神主も目を瞞つたる桜鱈
 (朝倉市) 深町 明
 桜見飽きて一日五千人が逝く
 (京都市) 室 達朗
 牛を撫で獅子を撫で春陽田川
 (富士市) 村松 敦規
 木浅れ日のごとくかきりの水芭蕉
 (長野市) 縣 展子
 雪柳死角なきまで咲き揃ふ
 (玉野市) 勝村 博
 正客は春風とする野点かな
 (浜松市) 新美 幸二
 同じ歯の抜けし双子や山笑ふ
 (東京都練馬区) 今井 名津
 チャーチルと似た犬とる花見哉
 (伊賀市) 馬岡 裕子
 モンローは大正生れ昭和の日
 (徳島市) 梅村 光明

【評】有馬さん。逆説的な表現に込められた虚無感と情熱と。深町さん。豊漁感謝の奉納品か。余程の逸物。室さん。一日に亡くなるのは、実際は平均して四千四百人ほど。その全員が、桜に飽きるくらい長生きしての大往生なら結構なのだが。

うたをよむ 大岡信を詠む

「第2回大岡信記念／富士山俳句大会」が4月12日、静岡県三島市で開かれた。大岡は、文学をはじめ音楽、演劇、美術など多彩な分野で評論活動をした詩人。2017年に86歳で死去した。俳句や和歌、詩などを鑑賞した本紙の読者から「折々のうた」は、1979年から2007年まで67回続いた。大会があった三島市は、大岡の生誕の地であり、生涯を閉じた場所でもある。

「第2回大岡信記念／富士山俳句大会」が4月12日、静岡県三島市で開かれた。大岡は、文学をはじめ音楽、演劇、美術など多彩な分野で評論活動をした詩人。2017年に86歳で死去した。俳句や和歌、詩などを鑑賞した本紙の読者から「折々のうた」は、1979年から2007年まで67回続いた。大会があった三島市は、大岡の生誕の地であり、生涯を閉じた場所でもある。

第25回俳句四季大賞・第14回俳句四季新人賞・第13回俳句四季特別賞 東京四季出版主催。大賞は、東京都の片山由美子さん(73)の句集「水柿(ふらんす堂)」に決まった。新人賞には、東京都の加那屋こあさん(54)の「ふれ合わず(30句)」が選ばれた。特別賞は、東京都の内村恭子さん(60)の句集「多神」(東京四季出版)。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のほかは1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(週に2作品まで)。QRコードから。

風信